

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902120
法人名	特定非営利活動法人 福祉ワーカーズコープ ふれんど
事業所名	グループホーム ふれんど
訪問調査日	平成19年7月30日
評価確定日	平成19年9月15日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902120		
法人名	特定非営利活動法人 福祉ワーカーズコープ ふれんど		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地 (電話番号)	神奈川県横須賀市大矢部 3-30-6 (電話) 046-837-6623		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	平成19年9月15日

【情報提供票より】(19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 ~ 75,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300 円				

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 80 歳	最低 75 歳		最高 90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療生協衣笠診療所 汐入メンタルクリニック 古谷歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、北久里浜駅からバスで5分、そこから徒歩で10分の住宅地に立地している。居室は4.5畳から10畳まであり、それぞれ家賃が異なる。階段に昇降機を設置している。
近隣の、自宅で暮らしている認知症の人を対象にショートステイを併設している。また、隣に同法人のデイサービスがある。デイサービスとは日頃から交流しており、デイサービスの利用者はグループホームの職員とも顔なじみになっている。そのため、デイサービスの利用者がグループホームに入居する際は、安心して、納得した上で入居することができる。
職員は明るく、利用者は安心して生活しており、大家族のような雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は、ミーティングで職員に周知している。課題の項目については、「相談窓口の掲示」「夜間の包丁の管理方法や保管場所」等を改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者・主任などが出席する運営会議でまとめた。職員は、全職員参加のミーティングで確認している。自己評価を通じて、「家族からの意見や苦情があまり上がっていない」という気付きがあった。そのため、意見箱の設置等を検討する意向である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はこれまでに5回開催している。会議には、民生委員、自治会長、市職員、地域包括支援センター職員、各グループホームの代表が参加している。会議の内容は、グループホームの説明や見学、サービスの実際の報告などである。複数のグループホームが合同で参加していることもあり、各事業所の評価への取り組みについては、まだ話し合われていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者それぞれの暮らしぶり、来訪時の声かけや毎月の手紙で、健康状態の変化があった時は電話で、家族等に伝えている。その際に意見等を聞き、家族の意向を運営に反映するよう努めている。預かり金は2千円の残を目安に、家族が来訪した際に「小遣い帳」と「領収書」で確認してもらっている。職員の離職は特に伝えていない。苦情相談受付窓口が記載された文書を事業所内に掲示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板を廻したりゴミ収集所の清掃当番を行なっている。地区の自治会や町内のボランティアが主催する「高齢者食事会」へ参加している。また、小学校から運動会への招待を受ける等、地域の人々と交流している。民生委員やフラダンスなどのボランティアとして地域の人が訪問してくれる。 災害時は非常階段に避難するという指導を消防署から受けた。そのため、事業所内に手順を掲示して、慌てずに対応できるようにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個々の入居者が長い間生きてこられた歴史を大切にして、自分らしい毎日の生活を送っていただく支援をする。利用者や職員みな大家族の一団のように過ごしていただきたい。地域の中で生活者の一人として社会の一員として生きていただきたい」という事業所独自の理念を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、全員参加が原則のミーティングで理念に触れ、職員に周知している。また、理念に関連した研修報告の際などにも取り上げている。職員は、入職時に理念についての話を聞き、資料を持参している。理念を居間に掲示して共有し、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を廻したりゴミ収集所の清掃当番を行っている。民生委員やフラダンスなどのボランティアとして地域の方が訪問してくれる。地区の自治会や町内のボランティアが主催する「高齢者食事会」へ利用者が参加している。また、近隣の小学校から運動会への招待を受けるなど、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部評価の意義は、ミーティングで話している。今回の自己評価は、管理者・主任などが出席する運営会議でまとめた。職員は全職員参加のミーティングで確認している。前回の外部評価結果はミーティングで職員に周知した。評価結果を受け、夜間の包丁の保管場所などを改善している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに5回開催している。会議には、民生委員、自治会長、市職員、地域包括支援センター職員、各グループホームの代表が参加している。会議の内容は、グループホームの説明や見学、サービスの実際の報告などである。複数のグループホームが合同で参加していることもあり、各事業所の評価への取り組みについては、まだ話し合われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者や成年後見対象者などの受け入れ確認や介護計画の相談で、市の担当者及び担当以外の部所とも連携を図っている。運営上の不明な点がある場合などには、市役所に出向いて相談している。隣家のデイサービス設立時にも、ホーム長は担当者と頻繁にやり取りをした。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々の暮らしぶりは、来訪時の声かけや毎月の手紙で家族等に知らせている。健康状態の変化や何らかの問題がおきた時は、電話で家族等に伝えている。預かり金は2千円の残を目安に、家族が来訪した際に「小遣い帳」と「領収書」で確認してもらっている。職員の離職については特に伝えていない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所と外部機関の苦情申し立て窓口を記載した文書を事業所内に掲示している。電話連絡や来訪の際に意見等を申し出をしてほしい旨を家族等に伝え、話を聞き、運営に反映できるよう努めている。意見や苦情を吸い上げるため、意見箱の設置を検討する意向である。家族会はない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は少ない。管理者が離職する際は、利用者に報告する予定であるが、他の職員については、報告していない。職員採用時の利用者の不安解消の配慮としては、引継ぎを十分に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートの職員もチームの一員として研修やミーティングに参加している。研修に参加した職員は、研修報告書を提出している。ミーティングで研修報告し、内容を共有している。ホーム長は、資格取得を含めた、職員を育てるための研修計画書を作成する意向である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市グループホーム連絡会に加入している。職員は、グループホーム連絡会の研修や会議に交替で参加している。また、相互に事業所の訪問などを行い、同業者と交流して意見交換などを行なっている。		


外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスの利用を開始する際は、個人面談や見学を行い、不安や思いを受け止める機会を作っている。馴染めない利用者には、自宅の部屋を忠実に再現するなどの工夫をしている。同一法人のデイサービスや提携医両機関の紹介で入居する人が多い。デイサービスとは交流があり、ホームの職員と顔なじみの利用者も多いため、安心して、納得のうえ入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の特技や趣味を把握している。利用者から梅干作りや歌を教えてもらい感謝する、戦争中の思い出話を花を咲かせ共に泣き笑いするなど、一緒に過ごしながらか利用者から学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当制にして、利用者ごとの希望や状態を把握している。把握した内容を毎月のミーティングで議題にして、利用者の意向を共有している。意向を把握するのが困難な利用者は、気のおける職員との入浴時の会話などから思いや意向を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からは来訪時などに、利用者からは日々の関わりの中で、思いや意見を聞き介護計画に反映している。利用者それぞれの問題や現状にそって、医師や市の担当者などとも話し合っている。また、「日常生活動作能力調査表」などを活用し、介護計画「施設サービス計画書(1・2)」を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し期間は6～12ヶ月となっている。状況変化がある場合は、その都度見直しを行っている。詳細に記された個別の「個人日誌」や「やれることを見つけよう」などを参考にして、現状に即した介護計画書を作成できるようにしている。「施設サービス計画書(1)」に家族の意向が記載されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の、自宅で暮らしている認知症の人を対象にショートステイを併設している。医療連携に努め、提携病院などを明確にしている。同一法人の隣家のデイサービスを訪ね、ボランティアの催しなどに参加している。整形外科医への通院支援などの自主サービスを行っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの提携医療機関をかかりつけ医としていた人が、その医師の紹介で入居するケースが多く、利用者の以前の受診経過や現在の受診希望を把握している。家族と相談のうえ、提携医療機関(内科・歯科)で定期的な訪問診療の受診を支援している。皮膚科にも訪問診療の依頼をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に、医療的な対応が必要になった場合は医療系の施設へ移る旨が明示されており、家族に伝えられている。医療的な対応を必要としない場合は看取りを行う方針である。実際に、利用者が安心して最後を迎えられるようチームで話し合い、看取りを行った実績がある。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「尊重と信頼の絆を作っていく、言葉遣いはゆっくり丁寧に話す、排泄誘導の際はそっと誘う」などが接遇のマニュアルに記載されている。職員は入職時に利用者のプライバシーを守ることを誓約している。記録などの個人情報はロッカーに保管し施錠している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する事のないよう努めている。利用者は、好きな時間に寝起きをしている。入浴、昼寝、カラオケ、夜勤者とおしゃべり、地域の食事会への参加など、利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りや会話をしながら利用者と一緒に同じ食事をしている。利用者が一番の楽しみが食事であることを把握している。好き嫌いを把握して献立を工夫したり、音楽を流して、食事を楽しめるようにしている。利用者は、野菜の皮むき、下膳、食器やテーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯温などを考慮し入浴を楽しめるようにしている。毎日お風呂を沸かし、週に3回程度、14～16時30分頃に入浴している。利用者ごとに入浴の曜日が決められているが、入浴日以外でも希望があれば入浴している。夜間の入浴は支援していない。職員がタイミングを見て声かけをしており、現在、入浴拒否の人はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたむ、自室の掃除を職員と共に行うなど、一人ひとりの力を活かした役割の支援をしている。庭の枇杷の袋かけや梅を落として梅干を作るなど、生活歴を活かした支援をしている。化粧してお洒落する、庭でティータイム、歌を唄う、貼り絵などのボランティアとの交流で楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、日常的に散歩に出かけている。また、城ヶ島などへのドライブ、季節の花見、外食などに出かけている。町内会や地域のボランティア主催の食事会に利用者数名が出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は、近隣に空き巣が入ったことなどから防犯のため施錠している。職員は利用者の言動から外出の傾向を把握し、中庭に続く窓からの外出に対応している。事故防止のため、居室の出入りをチャイムで捉えているが、利用者の状況により対応を検討し変更している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回消防署に依頼して、火災報知機の点検や避難路の整備などの指導を受けている。消防署より「煙から逃れる、非常階段の上で待機する」などの指導を受け、避難方法を壁に張り、慌てずに対応できるようにしている。水や紙おむつなどを備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録している。水分補給には注意を払い、起床時、朝食時、10時、昼食時、3時、夕食時に必ず水分を取っている。看護師が体調管理の一環として食事や水分量のチェックをしている。献立は、提携病院の栄養士に年3回程度チェックしてもらい、食事係が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花が飾られている。利用者が庭の花を摘んで花瓶にさす、梅干を作るなど、季節感が取り入れられている。普通の家を目指しており、折り紙などの飾りは飾らないよう配慮している。共用の空間は、適度な光が差し込み、小窓の開閉で換気に努めるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。設備などは一般家庭と同様の物である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物などを用意することを伝えていた。絨毯、仏壇、タンス、鎌倉彫の小引き出し、杉の文机などが持ち込まれている。利用者によっては、自宅の部屋を忠実に再現して、居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分がその立場になったとき、このホームに入りたいと思えるホーム作りをする。	○ 新入職員に理念を話し、また資料を渡している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現場は厳しいが家族の立場になったら、という結論を導く。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に対して、お会いしたときにゆっくり話している	○ 地域の中で発言の場を持ったときにはしているが、こちらからその場を作ることはしていない。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方とは朝夕の挨拶にとどまらず、介護専門の立場で異変があれば駆けつけるなどしている。	○ 金魚の高齢者が遊びに来てくれるような雰囲気を作りたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板をまわしたり、ごみ集積場の清掃当番をしたりしている。小学校の運動会などに招待を受けている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員とは話していない	○	地域高齢者のニーズを把握し情報を得るにはどうしたらいいのか話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	つい目の前の忙しさに問題を深めかねている。	○	各職員の意見を聞けるとよいがそこまで行っていない。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前向きの会議をしており、職員にもそれを報告している。	○	職員間の連絡ノートにすべて書き込んでいる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	迷ったりしたときには市の方に相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見人制度の学習会には何回も出ており入居者も三人入っている。	○	行政書士とのつながりがあるので安心である。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修が度々あるので職員も参加させている。	○	職員会議で資料配布し自覚を促している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	図っている	○	図っている
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	どんどん意見を取り入れている	○	意見を受け止め、職員間にも反映させている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	報告している	○	月一回領収証を送るときに近況報告をしている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでも意見を言ってもらい反映させている。	○	あまり苦情がない
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議がその場になっている。	○	ボックスを置いてみたい
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	少々難しい		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	あまりダメージはない	○	りしょくは時々あるが移動はない

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に行く	○	研修後に報告書を提出
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具ルーフホーム連絡会での研修に職員が交代で参加するようにしている。	○	同じ地域の相互訪問
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスも多いがホーム全体としては取り組めない。個々に任せている	○	最近は忙しく機会がない。年末のみ忘年会をしている
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修や資格取得に向けて応援をしている	○	もっと力を入れたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者のアセスは必要である		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のご家族との面接は力を入れる	○	アセスメント方法などの研修

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを通して連絡プレーをとり見極めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず見学に来ていただき納得して入所していただく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに歌い昔話を聞き過ごしている	○	認知症の差が大きいとその差を埋める会話、レクリエーションに悩むこともある
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の悩みもよく話していただき理解しあっている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	大いに支援している	○	家族の方皆さん安心していらっしゃるが、安心してすぎているところもある
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも来ていただいている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングルームに皆さん集まりレクリエーションをしたりおしゃべりしたり楽しい時を過ごしている	○	介護度の差が出てきたときに厳しくなっていくと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も近況を知らせてもらえる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがゆっくり話し合う時間を持っている。	○	職員会議で各職員の知りえた利用者の情報を全部出してもらっている
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族の方より情報をもらっている	○	同じ敷地にあるデイサービスを気軽に利用できるといいと思っているが不可能らしい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人にあった楽しみ得意なことをやってもっている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見を聞きながら介護計画者を中心に作成している	○	計画者が元ナースなので専門的な意見が聞けている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画者が家族と密に話し合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックの記録、夜勤記録、個人日誌などが大変参考になる。	○	細かいチェックから大きな柱まで大変参考になる
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内のデイサービスに生かしてほしいとご家族から頼まれている	○	ショートでいいからホームを利用したいという人はいる
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さん、中学生などの協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域で行われている高齢者の食事会などに出席している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	抱括センターの方が二度見学に見えた		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	創立時から協力願っている医療機関があるので安心してている。	○	真夜中でも飛んできてもらえるので安心。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	設立時より認知症専門医の往診を得て入居者の症状を把握してもらっている	○	支援している
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護計画者が元ナースの為、常に健康管理の指導は行き届いている	○	細かいことも報告しているので安心してもらっている
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換している	○	入院者に職員が交代で見舞いに行き励ましている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望とご本人の状態で見取りをする意思統一をしている。	○	医療そのものを必要とする終末は無理だがその他なら見取りをしようと思っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	取り組んでいる		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ムード作りなど気遣いしつつ勤めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時よりプライバシー守秘義務は徹底している。	<input type="radio"/> ホーム内での個人名を出しての会話は禁止している
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	着替え、入浴、トイレなど、一つ一つの行動は本人の納得を得てからしている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合により予定を変えることはないが、入居者各個人のペースを徹底するまではしていない。	<input type="radio"/> 職員の配置数などですべてのことを入居者個人に合わせることは難しい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容者はボランティアも含めて決まっている。家族が連れて行くのは自由にしてある	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、お茶碗拭きなどお願いしている。	<input type="radio"/> 皿の盛り付けなどは、入居者同士のライバル心が出てくるので、注視した。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒者、喫煙者なし	<input type="radio"/> 誕生日などは、ジュースで乾杯している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	充分支援している	○	夜は各部屋にポータブルを置いてある
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には曜日を決めてあるがその人の体調で変えることもある	○	週に三回を基本にしてある
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	充分支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、掃除機を掛けたりやれる範囲はしてもっている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーに時折行くが買い物にはあまり興味を示さない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭に出て園芸を楽しんだり日向ぼっこをしながら歌を歌ったりしている	○	焼き芋を焼いたり散歩は日常的に行っている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、お楽しみ会、紅葉狩り、イルミネーション見物など季節を感じるように出かけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、自由に使ってもらっている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	よくいらしていただき、ゆっくり過ごしていただいている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はまったくない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯のため施錠しているが、リビング側は開放している	○	徘徊者はいないが、いる場合は皆さんに理解してもらった。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	十分支援している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は、鍵にかかるロッカーに入れてあり、その他危険物はない		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作り徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングに度々確認している。	○	リビング、キッチンなどの壁に大きく指示書を張ってある
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により避難マニュアルがある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方にはよく理解してくださっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の引継ぎ時に詳しく情報提供し、連絡ノートにも書いてある。	○	大きい異変の場合は職員へ連絡網をまわす。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳しい説明を引継ぎは常に行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、入床時の義歯を外すことは徹底している。	○	つきに1~2回歯科医の往診がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分支援している。	○	起床時、朝食時、10時、昼食時、3時、夕食時の計6回は必ず水分補給をしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防注射など、職員、利用者ともに実行している	○	職員は調理前の手の消毒、入居者の排泄介助後の消毒、風邪気味のときの休みは徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理は徹底している	○	食べ残しは廃棄し、賞味期限は厳守している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や手作り品など常に飾っている	○	家庭的な雰囲気
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分工夫している。	○	清潔で飾りすぎず自然体の空間作りを目指す。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士のお喋りなど、いつも楽しそうに過ごしている。	○	利便儀ルームの配置換えをして雰囲気を変えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	仏壇など慣れ親しんだを持って来ている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	全室エアコン完備、こまめに調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下やトイレにもセンサーをつけるなど、機能を生かしなが らも気を配ることを徹底している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る		○	共有のタオル、ハンカチは禁止。毎日使うハンカチを起床 時にお渡しして、ポケットに入れていただいている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている		○	天気のよい日は、庭に出て日向ぼっこをしたり、歌を歌った りしている。草取りもお願いしている。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ここは施設ではない大家族で住んでいま～す。 一に笑顔、二に笑顔、三、四がなくて五に笑顔をもっとにしている。 買い物から献立作り職員でやっている。